



## ヴェルディとジュゼッピーナの知られざる「娘」

～『ジュゼッペ・ヴェルディとフェッラーラの棄て子

Guseppe Verdi e la trovatella di Ferrara』

加藤 浩子（アムネリス）

### 序

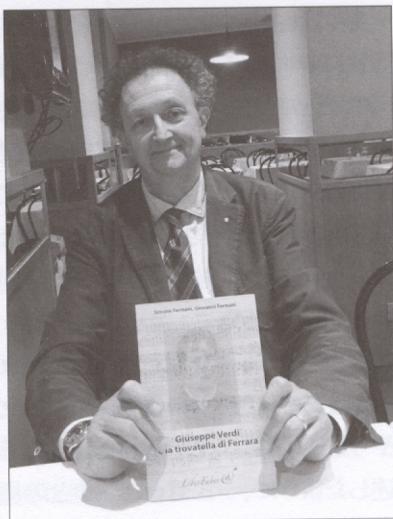
ヴェルディ・ファンならご承知の通り、ヴェルディの生涯のパートナーといえば、ジュゼッピーナ・ストレッポーニである。作曲家の娘に生まれ、歌手として成功し、スカラ座のプリマドンナに上り詰め、その頂点でヴェルディと出会い、ほどなくキャリアを終えてヴェルディと生活を共にしたジュゼッピーナ。その彼女が、歌手時代に何人もの私生児を産んだ奔放な私生活を送ったことを、ご存知の方も多いだろう。

だが、そのジュゼッピーナが、ヴェルディとの間にも「子供」をもうけていたかもしれない可能性については、ほとんど語られてこなかった。1990年代になってはじめて、アメリカの女流研究者フィリップス＝メッツ Mary Jane Philipps-Matz が、2人の間の子供の可能性について触れる。イタリアの女流伝記作者ガイア・セルヴァディオ Gaia Servadio は、ジュゼッピーナの伝記のなかでフィリップス＝メッツの記述を紹介したが、その可能性は低いとした<sup>(注1)</sup>。

だがこの春、モンテカルロで1冊の本が出版された。タイトルは『ジュゼッペ・ヴェルディとフェッラーラの棄て子 Guseppe Verdi e la trovatella di Ferrara』(Liber Faber, 2015)。著者は、ヴェルディとジュゼッピーナの間に生まれた娘のひ孫だと主張する、ジャーナリストのジョヴァンニ・フェルマーニ Giovanni Fermani と、指揮者のシモーネ・フェルマーニ Simone Fermani 兄弟である。

ヴェルディとジュゼッピーナに子供がいて、しかも棄てられた。にわかに信じがたい話であるのはもちろんだ。筆者はこの本に目を通した上で、今年の6月、ミラノで著者のひとりであるシモーネ・フェルマーニに会うことができた。その結果、彼らがヴェルディとジュゼッピーナの末裔である可能性はかなり高いと感じている。

この稿では、当時のヴェルディとジュゼッピーナの状況を振り返りながら、「フェッラーラの棄て子」の物語をたどろうと思う。理解の助けになるように、ジュゼッピーナの子供たちの運命や、当時のヴェルディの状況なども書き加えてある。長文になり恐縮だが、ご了解いただければ幸いである。



著書を持つシモーネ・フェルマーニ氏

### ヴェルディとジュゼッピーナ、孤立の背景

ジュゼッペ・ヴェルディは、言うまでもなく、19世紀のイタリアに生きた人である。亡くなつたのはつい100年ほど前だから、実はそれほど昔でもない。以前、ヴェルディの足跡を追ってブッセート近郊を訪ね歩いていた時に偶然入ったチーズ店の女店主は、「マエストロ・ヴェルディ